

ミルフォードトラック・トレッキング報告



アオラキ・マウントクック(3, 754m)

日 時 2011年11月11日~20日

場 所 ニュージーランド 南島

参加者 石川 誠 (69才) 佳子

行 動

11/11日 横須賀~横浜YCATで成田空港に向かう。シルバーで片道2000円 空港でツアーリーダーの島田さんと参加者13人の方々と合流。定刻18:30分過ぎNZ90便で成田を発つ。

11/12日 飛行時間11時間、時差4時間午前9時30分首都オークランドに降り立つ。12.45分国内線で一路クイーンズタウンへ



「クイーンズタウン Bay」



「グレイドワーフへ船で渡る。」

14:35分到着 17:00~現地トレッキングオフィスにてブリーフィング。

宿舎NOVOTELに宿泊する。

夕飯後クイーンズタウンで永住権得て現地で生活している姪の義妹さんと、しばしお茶を飲みながら歓談する。この方とは結婚式で挨拶して以来の再会であった。



「トレックスタート地点」

11/13日 ミルフォードトラック 1日目

クイーンズタウンを大型バスで出発、途中湖畔が綺麗なテアナウで昼食を摂る。昼食後バスでテアナウ湖源頭のトレイルヘッドへ。そこで船に乗り換え、グレイドへ向かう。船を降りたところからポツポツと雨が来る。グレイド~徒歩 30分あまり最初のロッジ「グレイドハウス」に到着する。



「クリントン川を渡る。」



ここで各国から参加した 50 名余りの人たちと自己紹介などして交流を図る。オーストラリア、韓国、日本、スイスなど各国からの参加者が居た。

11/14日 ミルフォードトラック 2日目

歩行 16 km 朝食前に今日のランチを各自作る。サンドイッチ、ハム、野菜、果物、クッキーなど人それぞれ思い思い



「雪山が映える」

先頭、中間、スイパーとみんな若い 25 歳前後の美人揃いで中でも日本人で町田市出身の正子さんという現地ガイドが 元気よく笑顔で堪能な英語を話しながら接していた。彼女は、高校生でオーストラリアに語学留学そのままワーキングホリデーでニューシーランドで現地トレック会社に就職し、

冬場はスキー場で働いて青春を謳歌しているようだ。日本の女性も異国で頑張っているなど強く思う。昼食後思い思いに又歩き出す。天気も晴れて氷河で削られた壮大なU字谷が素晴らしい。高さ 500 m はあろうかと思う滝がそこかしこに見られ、壮観である。

途中雪崩により川がせき止められたヒドンレイクという湖もあり、バスストップという川が氾濫して渡渉できないときはここで水が引くの待つ場所があり、実際ここまでバスが来るわけではないが、今では立派な橋が架けられ余程の洪水でなければ安全に渡れるようになっている。

3 時近く今夜の宿「ボンポローナ」ロッジに到着する。宿は洗濯、乾燥、シャワー室なども整備され、濡れた



「U字谷 周りには多くの滝」

ボリュームもある。7 時 30 分過ぎ各自思い思いに出発する。クリントン川を眺めながら時折つり橋を見ながら遠くの雪山、

渓谷 透き通った川面にはマスの姿も見えた。ガイドは



「クリントン川河畔に行く」



いたずら好きな鳥「ケア」

衣類などはすぐ洗って乾いてしまうので至れり尽くせりの環境でもある。夕食も魚、肉とどちらか選択できるのでその日の体調で選ぶことができる。夕食後は三々五々ロビーに集まり、ワインなど飲みながら片言の英語を駆使し交流を深める。



「マッキノン峠にて」

11/15 日

今朝も朝からサンドイッチなどランチを自分たちで用意し、出発する。今朝は曇り空で天気はあまりよくない。クリントン川の源流を渡り、ミンタロ小屋を経由し、ジグザグに切られた道をマッキノン峠への登り掛かります。この頃より雨が降り出し雨具をつけ、マッキノン峠につくときは、冷たい雨と風にさらされ峠に立つケルンところで早々に写真を撮り、30分ほどのところにある小屋に逃げ込みました。



「クインティロッジ」

ていましたが、この雨の中では行く気になりませんでした。

落差580mを落ちるその滝は壮観そのものであったとのことでした。宿に入り早速濡れたものを洗濯し乾燥室へ、2.3時間すると夕食前には乾いていました。

夕方降っていた雨も上がり月明かりの中見える山々は荘厳な太古の姿を現していました。目の前には谷川岳一ノ倉沢衝立岩の3倍はあろうかと思われるような岩壁が白糸の様な瀧を落としていました。

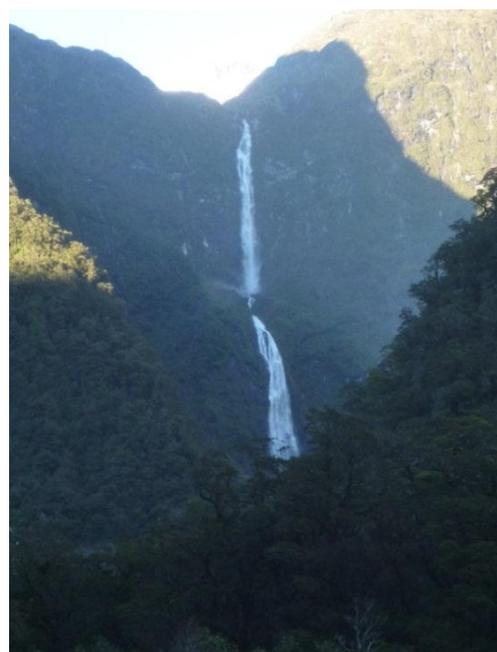
11/16 日

クインティロッジを朝7:30分頃出発アーサー谷を下る。終点まで21kmの行程途中には素晴らしい滝マックイ滝アダ湖、ジャイアントゲート滝などが何か所も落ち、本当に地球誕生の時代を思わせるようなシダ植物や苔類、銀ブナの大木などそれは感動ものである。道もが多く濡れているが整備され歩きやすい。大雨の時にはこの登山道も腰まで浸かって渡渉する場合もあるとのこと、いかに雨が多いかが分かる。

峠では冷たい風と雨の中短パンと雨具のガイド昌子さんが温かいスープとココアを魔法瓶に入れ、飲ましてくれました。しばし、冷えた身体が暖まり、感謝の一言です。

この冷雨の中でも名物の鳥「ケア」が人の荷物を開けようとして寄ってきます。本当に剽軽なオウムです。

小屋でランチを摂ったあと、下りに掛かります。通常ルートは、ゆったりとした登山道を下るのですが、途中上部に雪渓が残っていて雪崩が危険なため、迂回する道をたどります。急峻な道に幾分気をつけながらゆっくりと下ってゆきます。川の音が聞こえてくるともうすぐ小屋は近くなってきました。クインティロッジです。早速元気な人は往復1.5時間のサザーランド滝の見物に行



「落差世界第4位のサザーランド滝」

午後 3:05 分終点のサンドフライに到着するが船の 1 便は行ってしまった。その間お茶を飲みながら小屋の中で荷物を整理しながら待つのだが、外はサンドフライ（日本でいう小さいブヨ）出発時薬屋で虫除けスプレーを買って塗っておいたが、手首のまわりを食われてしまった。これは本当に痒さが後からきてとても日本の比ではなかった。帰国してからも痕がのこりかゆみを感じていた。



「シダと苔に包まれた原始の森」

4 時の第 2 便の船に乗ってミルフォードサウンドの湖畔のホテルマイターピークロッジにつく。ここで 4 日間に亘るトレッキングは終了する。

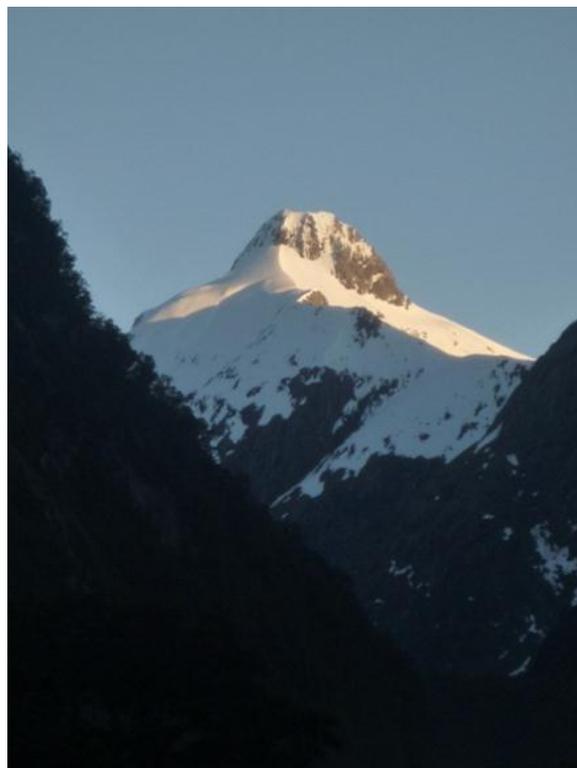
晚餐は付き添った 4 人の若い女性のガイドたちも みんな着飾って見違えるほどみな美しかった。夕食後完歩賞が一人ひとり渡され参加者全員で祝福しあい交流を深めた。暖炉の周りには大きなグリーンストーン（翡翠）が埋まった暖炉があり、この石をさすると幸せを招くとのことで参加者みんなが触っていた。



「水量も多く美しい滝が多い」



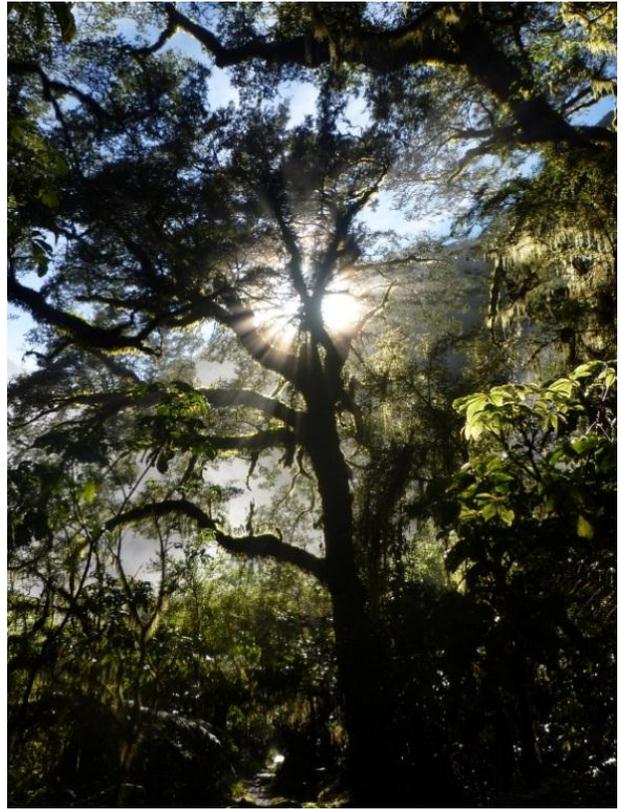
「衝立岩の 3 倍はあろうか」



「朝日に映える」



「水底が見えるアーサー川」



「苔むした木々が陽に映えて美しい」

11/17日

午前中ミルフォードサウンドを船で遊覧するのだが、あいにく途中から降ってきた雨で遠くの山は煙っていて視界が良くない。船はタスマン海で行きそこから港へ引き返すが船は木の葉の様に揺れていた。



「クイナの仲間ウエカ」

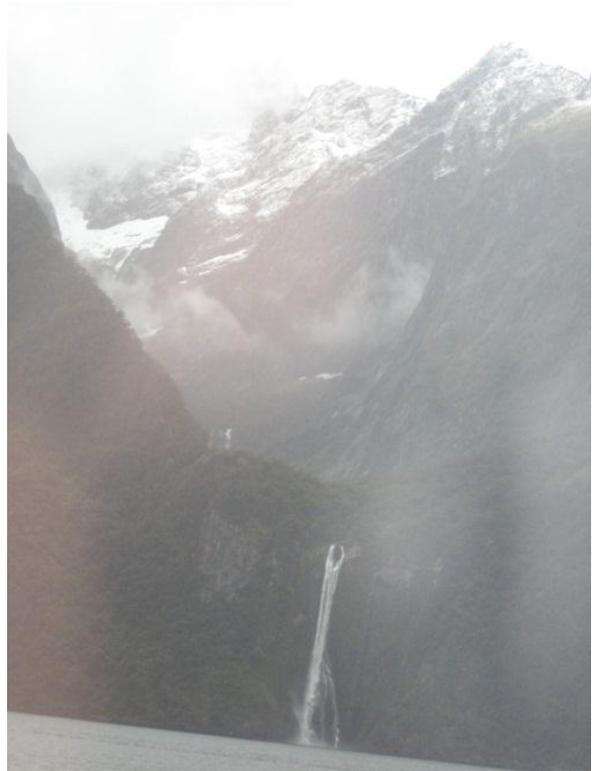


「トレック終点サンドフライ」

1,5時間の船旅だか、岩場にはアザラシが昼寝をして、船の航行に沿ってペンギンやイルカなどが伴走し泳いでくれた。この荒天と寒さの中三隻のカヌーが海へ漕ぎ出していたのには驚いた。



「ミルフォード サウンド」



「雨に煙るミルフォード°サウンド」

下船後はバスでクイーンズタウンのホテルに戻ってゆく。途中峠のホームートンネルの周辺の山々は初夏だというのに吹雪いていて新雪が積もっていた。



「フッカー谷を行く」



「mtセフトン3151mを仰ぐ」

夕方に初日に宿泊したホテル「ノホテル」に戻る。久しぶりに風呂に浸かる。

11 / 18日

朝、食堂に行くところで見覚えのある日本人が居た。登高会の大山氏と田中3兄弟で、お互いに日本ではあまり顔を合わせないのにこのNZで偶然にもあったことは驚きであった。

話し好きの惣さんに会うと楽しいのだが朝食も落ち着かない。彼らはルートバントレックに入ったとのことであり、メンバーは日本人6人でツアーリーダーは山田勝さん。

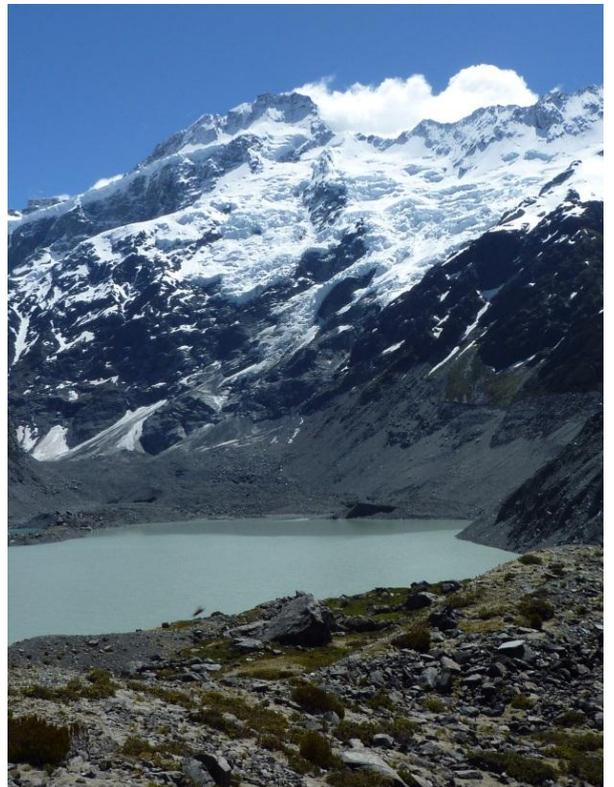
今日のマウントクックに入るとのことと同じ時間帯で別のバスに乗り込みマウントクックに向かう。昼過ぎ今日の宿舎「ヘリテイジ」に到着する。20年前には現地が冬のため、周りも雪野原で山も見えずただうら寂しいこじんまりしたホテルと記憶していたが、今は裏に立派な10階建くらいのホテルが出来て、世界の観光客トレッカーを受け入れている様だ。昼食後フッカー谷にトレッキングに行く。天気晴朗でアオラキ・マウントクックも微笑みかけてくれている。このコースにある橋が修理中でまだトレックはできないとのことであったが、現地ガイドが交渉して2時~4時の間に往復することを条件に通行許可が出たとのこと。ガイドも今年夏初めて入るとのことラッキーである。道端にはマウントクックリリー、エバーラスティングデイジーなど多くの高山植物が咲き始めて迎えてくれる。



「MT・セフトン」3151m



「氷河もヒマラヤ級」



「フッカー氷河の氷河湖」

面前にマウントクック、左にマウントセフトン(3151m)その稜線から流れる懸垂氷河がヒマラヤを思い起こさせるように凄い。高度は低いながら南極に近く天気も安定しない中、サザンアルプスにぶち当たった雲が雪となって南面に多くの雪を降らしている。これが標高は低くても素晴らしい氷河を発達させているとのこと北半球では岩場は北壁が

困難な岩場を抱え難いと言われているが、南半球は南面の方が悪く、一般的な登山ルートは、北面から取りついているとのことであるが、暁山岳会の大竹氏パーティーは南稜を登ったとのことである。

周囲360度の素晴らしい風景を堪能しながらフッカー氷河湖までたどる。ここNZでは10日のうち7日は雨とのことで、1日に夏と冬が入れ替わり登山に際しては天候の見極めが登頂の成否を決めるとのことであつた。

この景色をいつまでも堪能したいところだが元来た道に戻る。ちなみに我々が泊まった部屋からは常にマウントクックを見ることができ夕方、朝方素晴らしいロケーションで迎えてくれた。

夜もサザンクロス（南十字星）や大きな天の川、ダイヤをちりばめた様な星空を期待したが、そこまでは天は味方してくれなかった。

このホテルにはエベレスト初登頂者エドモンドヒラリー卿のミニ博物館もあり当時を偲ぶことが出来た。

「部屋から見える氷河が朝日に映えて美しい」

ダイナーもブレックファーストも豊富な

メニューで彩られ、パキやネパールとは違っておいしく食べられた。



Aoraki・Mt クック



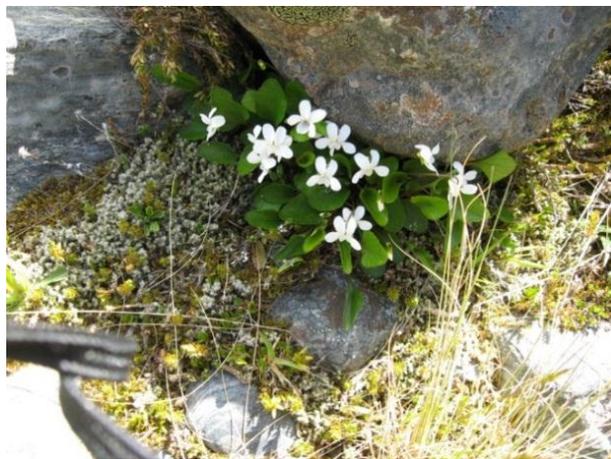
「ホテル・ヘリテージ」



「エバーラスティングデージー」



「初夏だというのにこの雪景色」



「夫婦二人連れのライダー」



11 / 19日

今日の予定は強行軍、バスで1.5時間ほどテカポ湖へ。ランチはサーモン丼で歓待される。日本人の経営の様であり、場所もロケーションもよく多くの観光客が立ち寄っていた。



「牧歌的な羊の放牧」

オークランドホテルは、オークランド大学の広大な敷地内にあり、裁判所や田の公共施設もあるとのこと。丁度マウイ族の人たちの結婚式が行われていて、その独特の民族衣装には目を見張し、観衆の目を引き付けていた。

夕食後関西方面の参加者4人はホテルに泊まらず深夜便で日本に帰国した。

湖畔には小さな教会があり、湖とマッチしてよい環境を醸し出していた。その後クライストチャーチから荷物を整理し、ここで皆土産物等を買っていたが、マヌカハニーが有名とのことで購入求めた。街中はラクビーのオールブラックスで有名な2011年ワールドカップのエンブレムが入ったジャージなどを孫に購入求めた。国内便で17:50分オークランドに向かう。



「テカポ湖からのアオラキ・mtクック」

11 / 20日 ホテルからバスで30分オークランド空港へ手荷物検査、チケットを受け取り午前9:15分NZ99便で飛び立ち帰国の途に就く。

11時間乗って日本との時差4時間時計の針を戻して無事16:30分頃日本の地に無事到着した。これで11日間にわたるニュージーランドミルフォードトレックとマウントクックフッカー谷トレックの旅を終えた。みなさんお疲れ様でした。

石川 誠 記